

(6) スッポンの病害研究—II

研究の経緯 (昭和37年)

照屋忠敬、金本自由生、嘉数 清

本年度は疾病発生状況調査、罹病スッポンからの細菌分離、病原性試験、*A. hydrophila* に対するBAY9391の薬効試験、血液性状試験を行なった。
なお詳細は51年度指定調査研究報告書、病害部門において報告したのでここでは要約にとどめる。

1 疾病発生状況調査

疾病発生の季節的動向は2~4月の冬眠あけの温度上昇期と9~11月の温度下降期とに、へい死のピークがみられた。

2 罹病スッポンからの細菌分離

罹病スッポン14個体より100余株の細菌を得た。同定の結果、グラム陽性球菌 *Proteus* sp. *Moraxella* sp. *Flavobacterium* sp. *Edwardsiella tarda*. *Pseudomonas aeruginosa*. *Pseudomonas* sp. *Citrobacter freundii* *Aeromonas hydrophila* であった。

8月下旬の大量へい死期には早羅にカビ様物の付着がみられ、*A. hydrophila* と *Pseudomonas* sp. が分離された。

3 病原性試験

これまでに分離された菌株について病原性試験を試みた結果、スッポンに対して *Aeromonas* sp. が毒性は弱いが病原性を示した。

4 *A. hydrophila* に対するBAY9391の薬効試験

A. hydrophila 菌数 10^6 に対しBAY9391、2.5mg/kg × 2日投与で薬治効果がみられた。

5 血液性状

健康体の指標として、ヘマトクリット値及び、血清タンパク量を測定した結果、健康スッポンのヘマトクリット値は30~45%で血清タンパク量は4.0~6.4g/dlであった。